

氏名	山 名 正 俊
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 174 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和41年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	線維芽細胞抑制による慢性肝疾患の治療に関する研究 第 1 編クロロキン剤による慢性肝疾患患者の治療に関する研究 第 2 編実験的慢性肝障害に及ぼすクロロキン剤の影響 —その抗炎症作用について—
論 文 審 査 委 員	教授 平 木 潔 教授 小坂 淳夫 教授 奥村 二吉

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

線維芽細胞抑制剤クロロキンを慢性肝疾患の治療に応用し、その効果について臨床並びに動物実験を行ない、又本剤の作用機序について実験的検討を行なった。第 1 編において各種肝疾患々者49例に対し本剤の投与を行なった結果、慢性肝炎患者では悪化例なく71.4%に、肝硬変者では66.7%に有効性を認めた。一方バンチ氏病患者に効果は認められなかった。尚、本剤による重篤な副作用は存在しなかった。第 2 編では慢性四塩化炭素肝障害家兎に対する本剤の効果について検討を行なった所、対照群に比し肝機能、肝組織学的所見等に明らかな改善を見た。尚、正常家兎肝は本剤により何らの影響も蒙むらなかった。第 3 編では granuloma pouch に及ぼす本剤の影響について各種検索を行なった結果、線維芽細胞抑制作用と共に抗炎症作用の存在を認めた。

以上、クロロキンは慢性肝疾患に対しかなり有効な成績を得たが、この場合、単に本剤の線維芽細胞抑制作用のみならず抗炎症作用等の関与も重視する必要があると考えられる。

3 編共に昭和40年 6 月30日発行岡山医学会雑誌 第77巻 5, 6 号に掲載

論文審査の結果の要旨

山名正俊提出の「線維芽細胞抑制剤による慢性肝疾患の治療に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

線維芽細胞抑制剤クロロキンを慢性肝疾患の治療に応用し、その効果について臨床並びに動物実験を行ない、又本剤の作用機序について実験的検討を行なっている。即ち第1編において各種肝疾患々々49例に対し本剤の投与を行なった結果、本剤による重篤な副作用はなく、慢性肝炎患者では71.4%に、肝硬変患者では66.7%に有効性を認め、一方バンチ氏病患者に効果は認めていない。第2編では慢性四塩化炭素肝障害家兎に対する本剤の効果について検討を行ない、対照群に比し肝機能、肝組織学的所見に明らかな改善を見ている。尚、正常家兎肝は本剤により何らの影響も蒙っていない。第3編では *granuloma pouch* に及ぼす本剤の影響について各種検索を行なっており線維芽細胞抑制作用と共に、抗炎症作用の存在を認めている。

以上よりクロロキンは慢性肝疾患に対しかなり有効な成績を得たが、この場合単に本剤の線維芽細胞抑制作用のみならず抗炎症作用等の関与も重視すべき事を指摘している。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。